



# 千葉労働動向

## 「不採用は国労幹部の指導」!? JR東労組の「資料」を弾劾せよ!

### 国鉄闘争の魂

八七年四月一日国鉄分割・民営化から、今年の三月三十一日までまる一〇年。そして、九〇年四月一日、「第二の首切り」と言われる一〇四七名の労働者が整理解雇の攻撃をうけ、そのまま清算事業団闘争に突入してまゝ七年をむかえた。

一〇四七名の果敢な闘いは、国鉄労働者の団結の中心に存在し続けている。また、今日の資本による大失業攻撃の中、全国で苦闘する労働者に勇気と希望を与え、闘いの結集軸になっている。

まさに、清算事業団闘争は国鉄闘争の魂であり、沖繩の闘いと共に、日本の労働運動を蘇生させる大事な柱だ。

JR東労組は、昨年一月月に発行した、「国鉄闘争」の幕を引きJR連合への吸収・合併に向う「国労」と題する、「職場学習資料」において、この清算事業団闘争、一〇四七名の問題について述べているが、ここに書かれている一言一句は、怒りなしに読むことはできない。

そもそもJR総連・革マルに、このことを語る資格があるのか。国鉄分割・民営化攻撃の前に、己れの生き残りのために、真っ先に裏切り、辱べき屈辱に走ったのが、当時の動労・革マルだ。それを、誰もが忘れたとも思っているのか。

革マルの言うこと、書くことは、この真実の前に、不屈の清算事業団一〇四七名の仲間の闘いの心意気や志の高さのまえには、一発で吹き飛ばしてしまおう。

### 首切り(不採用)を西支求したのは誰か

資料の「責任回避のための東労組攻撃」という項目で、派遣・休職などの「三本柱」に協力しない・組織としての対応の違い、指導の違いが、組合員を解雇へと追いやる指導・「不採用者を生み出した原因は国労幹部の指導」としているが、「不採用者を生み出した」、いや、分割・民営化による国鉄労働者二〇万人の首切り、二百名をこえる自殺者を生み出した真の「原因」は、革マルと松崎の「指導」であることは明らかだ。

「改革前年の一九八六年には、三万九一〇〇人が希望退職に応じ、七四〇〇人が公的部門に転出した。また、要員状況の厳しい北海道、九州から本州へ三八〇〇人が異動(「広域異動」)した。一九八六年四月一日現在で、一万一〇〇〇人が派遣に出しており、直営店舗など新規事業にも二〇〇〇人が従事、休職者も一八〇〇人いた。」と、動労をはじめ、「分割・民営化が必至の情勢下で、しかも人員整理が避けられない状況を確認した組合は組合員と討論をくり返し、組合員個々の条件を検討しあい、様々な施策に依拠していった。」と、革マルがどれだけ、政府・支配階級の忠実な奴隷頭として、これだけの国鉄労働者の首切りを協力しましたと、得々として書き連ねている。

だが、その本当の中身は、日刊動労千葉四五七二号で断罪したとおり、「三八〇〇人の広域異動」「血の入れ替え」で、国労組合員をパージし、「組合員と討論をくり返し」「卑劣な嫌がらせで先輩の組合員をむりやり退職に追込んだということだ。」

「不採用になって清算事業団に所属することとなった七六〇〇名・三年間の再就職あつせん期間が過ぎた一九九〇年四月一日、八〇〇名余りが辞職をし、残る一〇四七名が清算事業団を解雇された」時に、清算事業団闘争にあらん限りの敵対を繰り返し、「もし政治介入が行なわれるならストも辞さない」と、清算事業団労働者の首切りを要求して「スト権確立」を叫んだのが革マル・松崎だ。罪は大きいぞ!

### 一〇四七名先頭にJR総連・革マル

### 打倒!

「国鉄改革に仇なす国労」だから、不採用・解雇されるの

は当たり前前、清算事業団労働者の「ゴネ得」は許さないと主張。では問うが、国鉄分割・民営化は正しかったのか、本場に「改革」だったのか、JR総連・革マルよ、答えて見よ! 白を黒といいくるめる、ファシストのやり方はもはや通用せんで!

革マル・松崎は、ことさら「改革の崇高な理念」と叫ぶことによって己れの裏切りを正当化しようとしているだけである。自分でさえ「改革」などと思ってもいないのだ、松田など汚い利権をあさり、JR東との結託体制を守るためには、貨物をはじめ同じJR総連の西や東海を利用してはいるのだ。

結局は、国労や動労千葉に犠牲を転嫁し、自らの組合員も当局に差し出して、革マルという党派の温存を図るためには何でもやるということなのだ。

「国労解体方針」の核心もここにある。そして、革マルが清算事業団闘争を冒涇することなど一ミリたりとも許してはならない。

闘う清算事業団闘争一〇四七名を先頭に、怒りをもってJR総連・革マルと対決し、これを打倒し、正念場の国鉄闘争の勝利を切り拓こう!

「分割民営化一〇周年弾劾、動労総連合総決起集会」へ  
日時: 四月五日(土) 十七時三〇分  
場所: 千葉市市民会館小ホール